



Cラーニングを活用した授業の実践

慶應義塾大学理工学部電子工学科: 池原 雅章

1. 理工学部におけるFDの現状
 2. 慶應義塾におけるIT環境と教育支援システム
 3. C-learningを用いた講義の実践と工夫
 4. C-learningを用いた学科運営
 5. 課題とまとめ
-



慶応義塾理工学部におけるFD

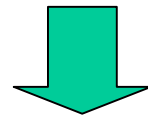
- SFCでは1990年度創設期から日本の草分けとしてFDを実施し、現在は次のステップへ
- 平成19年11月、大学教育委員会で、学部大学院におけるFD実施状況報告
- 平成20年度から大学教育委員会にFD小委員会を設置

理工学部

- JABEE(機械工学科)
- 平成18年度秋学期(FD委員会+特色GP)日吉基礎教育科目
- 平成19年度春学期:学科専門科目
- 平成19年度秋学期:外国語・総合教育科目
- 平成20年度春学期:学部本格実施、大学院FD試行
- 平成21年度春学期:大学院本格実施

FDアンケートと教育支援システム

- FDアンケート: [SFCのシステムを利用\(スクールオンインターネット\)](#)
 - 回収率が低い
 - コメント回答率が低い
- 教育支援システム: [共通認証システムkeio.jp](#)
 - 学生の利用率が低い
 - 使い勝手が悪い



携帯電話



Cラーニングの導入と背景

- FDのための情報技術講習会(私立大学情報教育協会)
- 試験的に利用開始
 - シグナルプロセッシング(春学部3年、70名)
 - メディア信号処理(春院、40名)
 - 電気回路理論(秋学部2年、70名)
 - 応用解析第2(秋学部3年、200名)
- 世界的な電気電子工学の不人気
 - 第1希望の学生が半分
 - モチベーションが低い
 - 2年生の1/3が留年

利用の目的

- 出席管理(必須)
- [アンケート](#)(成績、振り返り)
- 小テスト(?)
- ドリル(?)
- [掲示板](#)(授業の案内、連絡)
- [教材倉庫](#)(配布物、過去問、模範解答)
- [相談室](#)(個別の連絡、全体連絡)
- レポート(電子ファイルを提出)
- ニュース(?)

授業の工夫

- 分かりやすく印象に残る授業（雑談）
 - 後ろからあてる
 - [E-learning](#)
 - [出席とレポート](#)
 - [過去問をアップ](#)
 - カンニング用紙（B5）を配布
-



学科アンケート

- 学年ごとの意識調査アンケート、他
- 研究室分け調査
- 工場見学調査
- 就職希望調査

まとめと今後の課題

- 成績は確実に良くなった、
 - 出席、いつでもどこでも、コミュニケーション、緊急連絡
 - 学生のCラーニングの評価
 - C-learningがあつて少し助かった。
 - 出席はc-learningでなくともよいと思うが、連絡が行き渡るのは便利だと思う。ちなみに、差出人しか分からないので、電気回路か応用解析か書いていただけるとありがたいです。過去問は持っている人と持っていない人との差を埋めるためにも配布は良いと思います。
 - C-Learningで出席を取る、レポートもネットを経由してUPするなど、積極的に新しい取り組みを行っていた。実際レポートの提出はネットのほうが融通がきき 便利だった。
 - Clearningのシステムが面倒だった。レポート提出が特に。
 - 小テスト、クイズの開発
 - レポートの返却
 - 学生とのやりとり
-